



大館能代空港

来年7月の開港に向け 10月に飛行試験を実施

順調に進んでいます

「あきた北空港」建設工事

開港まであと1年余り

平成八年度末で、工事は全体の八四％まで進んでいます。今年度は、八十二億円の費用を投じ、九月中には滑走路、誘導路、エプロンの舗装工事が完了の予定です。十月には運輸省のフライトチェックが行われる予定となっており、来年七月の開港に向けて順調に工事が進んでいると伺っています。

「あきた北」で県北地域をPR

大館能代空港をPRするため、親しみやすい愛称を募集したところ、全国から四千三百四十八点もの応募をいただきました。選考委員会を設置して選考したところ、「やわらかいイメージがある」、

「空港の場所が分かりやすい」などといった理由から、愛称を『あきた北空港』と決定しました。

今後、この「あきた北」を前面

平年並みに推移しています

四月から五月にかけて、周期的に天候が変わり、台風並みの暴風雨が発生するなど、激しい気象変動がありました。しかし、田植え作業前と畑作の定植前であったこともあり、特に農作物には被害はありませんでした。

八幡平の土石流災害による米代川の汚濁に関しては、大館地域農業普及センターが行った水質検査の結果、水田への影響はないことが分かり、農業関係機関と連携し

に打ちだし、キャンペーンなどを展開しながら県北地域のPRと空港の需要拡大を図っていきたいと考えています。

羽田1日2往復を目指します

羽田空港への就航がエア・ニッポン株式会社に決定したこと、及び乗り入れ便数は、政策枠として一日一往復だけであることは先の議会で報告したとおりで、請願活動のいかなく、現在も変更にいたっていません。今後とも引き続き粘り強い活動を続け、ぜひとも早期に一日二往復体制を実現させたいと考えていますので、皆様のご支援とご協力をお願いします。

農作物の生育状況

て農家への周知を図りました。

これまでの農作物の生育状況のうち、基幹作物である水稲は、苗の生育が順調に推移したことや田植え期間中が好天に恵まれたことにより、田植え後の活着も順調で、平年並みに生育しています。野菜についてはトマト、キュウリに多少の着果不良や肥大が見られますが、今後の天候次第で回復するものと思われまます。果実については、生育、開花ともに平年並みに推移